

表 2-5-1

		合計	そう思う	言えばそう思う	どちらかわからない	言えばそうと	どちらでもない	そうは思わない	統計的検定
8 人権や差別について、あまり関心がない	三田地区	158	4.4%	21.5%	39.2%	34.8%	p=.031 *		
	三輪地区	179	7.3%	20.7%	43.0%	29.1%			
	広野地区	57	3.5%	10.5%	42.1%	43.9%			
	小野地区	29	10.3%	6.9%	41.4%	41.4%			
	高平地区	35	2.9%	31.4%	25.7%	40.0%			
	藍地区	26	3.8%	23.1%	34.6%	38.5%			
	本庄地区	23	8.7%	30.4%	17.4%	43.5%			
	フラワータウン地区	273	3.7%	22.3%	48.0%	26.0%			
	ウッディタウン地区	439	2.7%	19.4%	46.5%	31.4%			
	カルチャータウン地区	48	4.2%	29.2%	31.3%	35.4%			
	つつじが丘地区	87	6.9%	18.4%	50.6%	24.1%			
	合計	1354	4.4%	20.6%	43.6%	31.4%			

表 2-5-2

F4地区	8 人権や差別について、あまり関心がない・逆
三田地区	3.0
三輪地区	2.9
広野地区	3.3
小野地区	3.1
高平地区	3.0
藍地区	3.1
本庄地区	3.0
フラワータウン地区	3.0
ウッディタウン地区	3.1
カルチャータウン地区	3.0
つつじが丘地区	2.9
合計	3.0

表 2-5-1 と表 2-5-2 によると、「8 人権や差別について、あまり関心がない・逆」に関しては広野地区で高い傾向が見られます。

しかし、この 1 項目の関連だけで地区と人権意識と関連があると結論づけるには慎重を期す必要があります。

問3 結婚（婚姻）についてお聞きします。

(1) たとえば、あなたのお子さんが結婚しようとする相手が次のような人であった場合、あなたはどうかされますか。あなたの考えにいちばん近いものに○をつけてください。お子さんがいない方も想定して回答してください。

表 3-1-1 は度数分布表です。問 3- (1) の選択肢を、結婚相手としての“受容性”の意味合いが順序尺度になるように並び変えることにします。そうすると、「子どもの意思を尊重する」、「わからない」、「周囲の反対があれば結婚を認めない」、「結婚を認めない」となります。以下の分析では選択肢の順序を並び変えて用いることにします。

表 3-1-1

	合計	を子 尊ど 重も すの る意 思	認あ めれ ない 結 婚を が	周 囲の 反 対が	い結 婚を 認め ない	わ か ら な い	無 回 答
1.1 外国籍・他民族の人	1420	76.3%	4.4%	1.6%	17.0%	0.7%	
1.2 本人または家族に障害のある人	1420	62.5%	7.3%	3.0%	26.6%	0.6%	
1.3 被差別部落出身の人	1420	61.0%	7.7%	3.5%	27.2%	0.7%	
1.4 刑を終えて出所した人またはその家族	1420	24.2%	12.1%	18.2%	44.7%	0.8%	

図 3-1 は、選択肢を並び替えたものです。

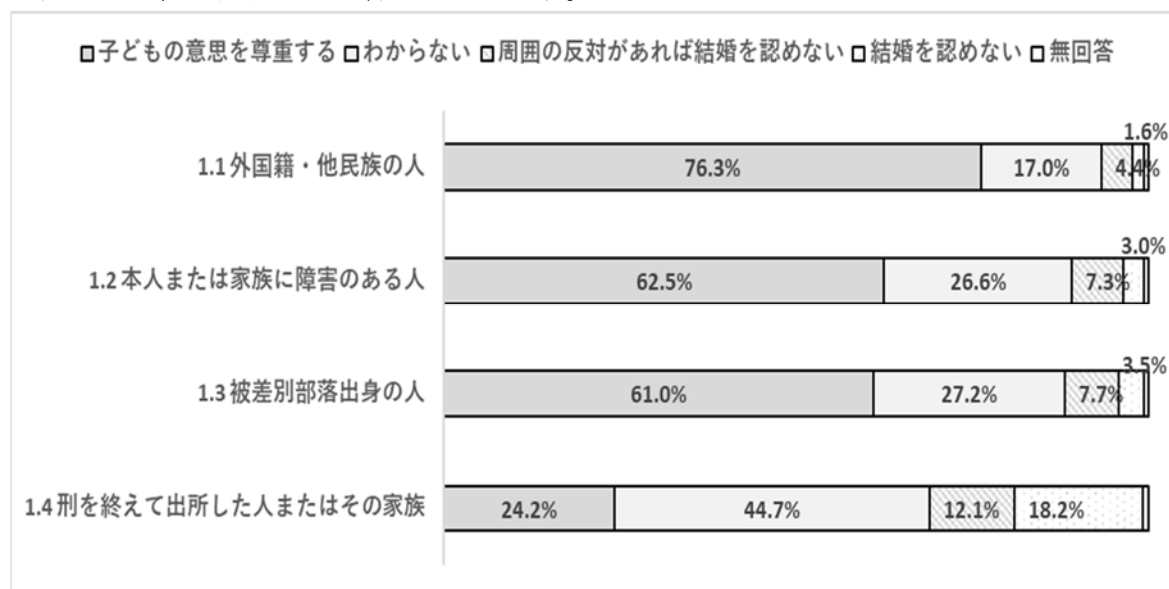


図 3-1

図 3-1 によると、子どもの結婚相手が、「1 外国籍・他民族の人」の場合、「子どもの意思を尊重する」との回答は 76.3%であり、他方、「周囲の反対があれば結婚を認めない」、「結婚を認めない」との回答は 6.0%です。「2 本人または家族に障害のある人」、「3 被差別部落出身の人」については、60%以上が「子どもの意思を尊重する」と回答している一方で、「周囲の反対があれば結婚を認めない」、「結婚を認めない」との回答は 10%を超えています。「4 刑を終えて出所した人またはその家族」の場合は、「子どもの意思を尊重する」との回答は 24.2%にすぎず、「周囲の反対があれば結婚を認めない」、「結婚を認めない」を合わせると 30.3%になっています。「1 外国籍・他民族の人」、「2 本人または家族に障害のある人」、「3 被差別部落出身の人」よりも「子どもの意思を尊重する」比率がさらに低くなっています。

表 3-1-2 は、2007 年度調査において、既婚者を対象に子どもの結婚相手が被差別地区の人の場合の判断を問う設問の集計結果です。

表 3-1-1 の「被差別部落出身の人」の回答結果と表 3-1-2 と、回答者の属性も選択肢も同じではないのですが、「周囲の反対があれば結婚を認めない」、「結婚を認めない」比率は、2020 年調査のほうがやや高い結果となっています。

表 3-1-2 2007 年調査

		22既婚者の子ども・被差別地区の人との結婚								
合計	子どもの意思を尊重	けたるめらったら勇氣づ	強けられどかたないが	が、と子ども反対する	親しいばや親戚の反対が	なあれ、親戚の反対が	い絶対に結婚を認めない	わからない	その他	無回答
1620	882	34	274	30	41	227	53	79		
100.0%	54.4%	2.1%	16.9%	1.9%	2.5%	14.0%	3.3%	4.9%		

性別によって回答が異なるのかについて確認するためにクロス集計を行ったところ、表 3-2 の「4 刑を終えて出所した人またはその家族」においてのみ、性別未選択者が男性や女性よりも受容度が高いことがうかがえます。他の項目については性差に関する統計的な有意差は見られません。

表 3-2

		1.4 刑を終えて出所した人またはその家族				合計
		子どもの意思を尊重する	わからない	周囲の反対があれば結婚を認めない	結婚を認めない	
F1 性別	男性	178 28.5%	257 41.2%	82 13.1%	107 17.1%	624 100.0%
	女性	157 20.7%	363 47.9%	89 11.7%	149 19.7%	758 100.0%
	性別未選択者	4 33.3%	6 50.0%	1 8.3%	1 8.3%	12 100.0%
合計		339 24.3%	626 44.9%	172 12.3%	257 18.4%	1394 100.0%

$\chi^2=15.031$ df=6 p=.020*

年齢との関連では、表 3-3 のように、「3 被差別部落出身の人」においてのみ、年齢が下がるほど受容的であることがうかがえます。

表 3-3

		1.3 被差別部落出身の人				合計
		子どもの意思を尊重する	わからない	周囲の反対があれば結婚を認めない	結婚を認めない	
F2 年齢	10歳代	91 71.7%	25 19.7%	8 6.3%	3 2.4%	127 100.0%
	20歳代	123 70.7%	34 19.5%	14 8.0%	3 1.7%	174 100.0%
	30歳代	116 65.2%	44 24.7%	15 8.4%	3 1.7%	178 100.0%
	40歳代	111 56.9%	56 28.7%	17 8.7%	11 5.6%	195 100.0%
	50歳代	124 56.9%	60 27.5%	20 9.2%	14 6.4%	218 100.0%
	60歳代	159 59.8%	87 32.7%	13 4.9%	7 2.6%	266 100.0%
	70歳代以上	131 57.0%	73 31.7%	19 8.3%	7 3.0%	230 100.0%
	合計	855 61.6%	379 27.3%	106 7.6%	48 3.5%	1388 100.0%

$\chi^2=35.480$ df=18 p=.008**

職種との関連では、表 3-4 における「3 被差別部落出身の人」についてのみ、公務員・教員、および、学生が他の職種よりも受容的であることがわかります。

表 3-4

		1.3 被差別部落出身の人				合計
		子どもの意思を尊重する	わからない	周囲の反対があれば結婚を認めない	結婚を認めない	
F3 職業	自営業	45 64.3%	19 27.1%	5 7.1%	1 1.4%	70 100.0%
	自由業	9 64.3%	5 35.7%	0 0.0%	0 0.0%	14 100.0%
	公務員・教員（研究員含む）	49 80.3%	7 11.5%	4 6.6%	1 1.6%	61 100.0%
	民間企業・団体の経営者・役員	22 62.9%	7 20.0%	5 14.3%	1 2.9%	35 100.0%
	民間企業・団体の正規職員	190 58.8%	85 26.3%	32 9.9%	16 5.0%	323 100.0%
	非正規職員	167 58.8%	84 29.6%	18 6.3%	15 5.3%	284 100.0%
	学生（浪人生含む）	127 76.5%	30 18.1%	6 3.6%	3 1.8%	166 100.0%
	無職（専業主婦、年金生活者、就活中を含む）	234 55.3%	139 32.9%	39 9.2%	11 2.6%	423 100.0%
	合計	843 61.3%	376 27.3%	109 7.9%	48 3.5%	1376 100.0%

p<.001 ***

地区との関連では、いずれの項目についても統計的に有意な差は認められませんでした。

(2) たとえば、あなたが結婚しようとする相手が次のような人の場合に、あなたの親戚から反対されたら、あなたはどのような対応を取りますか。いちばん近いものに○をつけてください。結婚されている方も想定（現時点での気持ち）して回答してください。

表 3-5-1

	合計	親戚を説得する	結婚はせず	結婚を諦める	わからない	無回答
2.1 外国籍・他民族の人	1420	55.9%	21.2%	4.1%	17.7%	1.1%
2.2 本人または家族に障害のある人	1420	50.0%	18.9%	5.6%	24.6%	1.0%
2.3 被差別部落出身の人	1420	43.2%	20.4%	8.3%	27.0%	1.1%
2.4 刑を終えて出所した人またはその家族	1420	25.1%	12.7%	19.6%	41.3%	1.3%

問 3- (2) の選択肢を順序尺度になるように並び変えるならば、「親戚を説得する」、「説得はせず結婚する」、「わからない」、「結婚を諦める」となります。以下の分析では選択肢の順序を並び変えて用いることにします。

図 3-2 は、選択肢を並び替えて集計した結果です。

図 3-2 によると、「1 外国籍・他民族の人」、「2 本人または家族に障害のある人」、「3 被差別部落出身の人」、「4 刑を終えて出所した人またはその家族」の順に、「親戚を説得する」の比率が減少し、「わからない」および、「結婚を諦める」の比率が増加しています。

「4 刑を終えて出所した人またはその家族」では、「親戚を説得する」「説得せず結婚する」を合わせても 37.8%であり、極端に低いことがわかります。

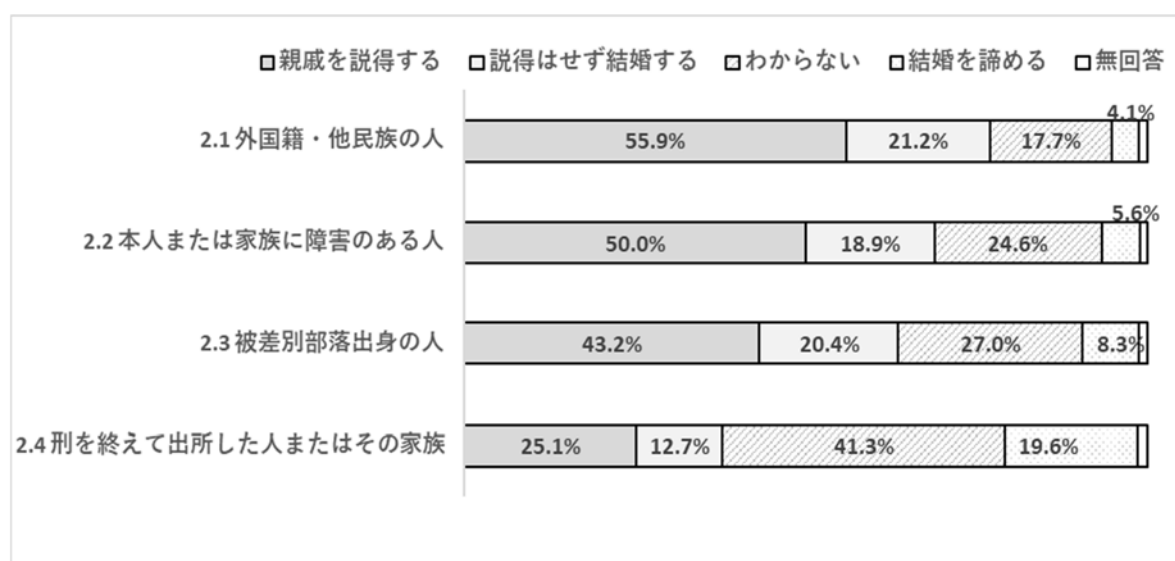


図 3-2

表 3-5-2 は、2007 年調査において、未婚者を対象に、被差別地区の人との結婚について問う設問の集計結果です。

表 3-5-1 の「被差別部落出身の人」の選択肢と、表 3-5-2 と、回答者の属性も選択肢も異なるので単純に比較はできないのですが、2020 年調査の「結婚を諦める」8.3%と、2007 年調査の「家族や親戚の反対があれば、結婚しない」と「絶対に結婚しない」を足した 7.2%と比べると、2020 年調査のほうが 1.1%高くなっています。

表 3-5-2 2007 年調査

		21未婚者・被差別地区の人との結婚									
合計	結婚する	自分の意思を貫いて	思を貫く	解を得ても、自分の意	あをっても、説得の理	あ家族や親戚の反対が	あ家族や親戚の反対が	絶対に結婚しない	わからない	その他	無回答
	237 100.0%	69 29.1%			63 26.6%	12 5.1%	5 2.1%	57 24.1%	9 3.8%	22 9.3%	

以下では、人権意識を数値化するために、「親戚を説得する」4, 「説得はせず結婚する」3, 「わからない」2, 「結婚を諦める」1 と点数化します。

表 3-6-1 は、性別と自分の結婚に関する考え方との関連をみたものです。

4 項目すべてにおいて統計的な有意差が認められます。

表 3-6-2 は、4 項目について平均値を求めたものです。

表 3-6-1

		合計	親 戚 を 説 得 す る	結 婚 す る せ ず	説 得 は な い	わ か ら な い	結 婚 を 諦 め	統 計 的 検 定
2.1 外国籍・他民族の人	男性	622	53.7%	25.4%	2.7%	18.2%	p=.007**	
	女性	755	58.9%	18.3%	5.4%	17.4%		
	性別未選択者	12	41.7%	33.3%	0.0%	25.0%		
	合計	1389	56.4%	21.6%	4.2%	17.8%		
2.2 本人または家族に障害のある人	男性	623	47.8%	23.3%	5.6%	23.3%	p=.008**	
	女性	756	53.2%	15.7%	5.8%	25.3%		
	性別未選択者	12	25.0%	33.3%	0.0%	41.7%		
	合計	1391	50.5%	19.3%	5.7%	24.5%		
2.3 被差別部落出身の人	男性	623	43.3%	25.7%	6.9%	24.1%	p<.001***	
	女性	755	43.8%	16.6%	9.9%	29.7%		
	性別未選択者	12	33.3%	41.7%	0.0%	25.0%		
	合計	1390	43.5%	20.9%	8.5%	27.1%		
2.4 刑を終えて出所した人またはその家族	男性	621	28.7%	16.4%	18.0%	36.9%	p<.001***	
	女性	754	22.4%	10.2%	21.8%	45.6%		
	性別未選択者	12	33.3%	8.3%	8.3%	50.0%		
	合計	1387	25.3%	13.0%	20.0%	41.7%		

表 3-6-2

F1 性別	2.1 自分の相手・外国籍・他民族の人	2.2 自分の相手・本人または家族に障害のある人	2.3 自分の相手・被差別部落出身の人	2.4 自分の相手・刑を終えて出所した人またはその家族
男性	3.3	3.1	3.1	2.6
女性	3.3	3.2	2.9	2.3
性別未選択者	3.2	2.8	3.1	2.7
合計	3.3	3.2	3.0	2.4

表 3-6-1 と表 3-6-2 より、次のような解釈が可能です。

「1 外国籍・他民族の人」は、男性と女性のほうが性別未選択者よりも人権意識が高いと解釈されます。しかし、「2 本人または家族に障害のある人」については、女性、男性、性別未選択者の順に人権意識は低くなっています。また、「3 被差別部落出身の人」と「4 刑を終えて出所した人またはその家族」については、男性、性別未選択者よりも女性において人権意識が低い傾向にあることがわかります。

次に、年齢との関連を見ると、表 3-7-1 のとおり、すべての項目において年齢と関連のあることがわかります。

表 3-7-2 は、平均値を求めたものです。

表 3-7-1

		合計	親戚を説得する	結婚はせず	わからない	結婚を諦める	統計的検定
2.1 外国籍・他民族の人	10歳代	128	71.1%	14.1%	14.1%	0.8%	p<.001 ***
	20歳代	174	64.4%	20.1%	13.2%	2.3%	
	30歳代	178	63.5%	20.2%	13.5%	2.8%	
	40歳代	194	54.1%	23.2%	19.1%	3.6%	
	50歳代	218	54.6%	22.9%	16.5%	6.0%	
	60歳代	265	52.5%	26.0%	17.7%	3.8%	
	70歳代以上	225	45.8%	20.9%	25.3%	8.0%	
	合計	1382	56.6%	21.7%	17.5%	4.2%	
2.2 本人または家族に障害のある人	10歳代	128	58.6%	12.5%	23.4%	5.5%	p=.007 **
	20歳代	175	59.4%	16.0%	20.6%	4.0%	
	30歳代	178	59.6%	16.9%	20.2%	3.4%	
	40歳代	194	47.4%	18.0%	28.9%	5.7%	
	50歳代	218	50.5%	22.5%	20.6%	6.4%	
	60歳代	265	46.4%	22.6%	26.0%	4.9%	
	70歳代以上	226	40.3%	22.1%	28.8%	8.8%	
	合計	1384	50.7%	19.4%	24.3%	5.6%	
2.3 被差別部落出身の人	10歳代	127	62.2%	14.2%	18.1%	5.5%	p<.001 ***
	20歳代	175	49.7%	20.0%	24.0%	6.3%	
	30歳代	178	48.9%	17.4%	25.3%	8.4%	
	40歳代	194	39.2%	18.6%	29.9%	12.4%	
	50歳代	217	39.2%	22.6%	26.3%	12.0%	
	60歳代	266	39.5%	25.2%	30.1%	5.3%	
	70歳代以上	226	37.2%	23.9%	30.1%	8.8%	
	合計	1383	43.6%	21.0%	27.0%	8.5%	
2.4 刑を終えて出所した人またはその家族	10歳代	127	38.6%	10.2%	30.7%	20.5%	p=.009 **
	20歳代	175	30.3%	12.6%	35.4%	21.7%	
	30歳代	178	26.4%	11.8%	44.4%	17.4%	
	40歳代	194	25.8%	10.8%	43.3%	20.1%	
	50歳代	217	25.3%	16.6%	36.4%	21.7%	
	60歳代	266	18.8%	15.0%	48.5%	17.7%	
	70歳代以上	223	20.6%	12.1%	46.2%	21.1%	
	合計	1380	25.4%	13.0%	41.7%	19.9%	

表 3-7-2

F2 年齢	2.1 自分の相手・外国籍・他民族の人	2.2 自分の相手・本人または家族に障害のある人	2.3 自分の相手・被差別部落出身の人	2.4 自分の相手・刑を終えて出所した人またはその家族
10歳代	3.6	3.2	3.3	2.7
20歳代	3.5	3.3	3.1	2.5
30歳代	3.4	3.3	3.1	2.5
40歳代	3.3	3.1	2.9	2.4
50歳代	3.3	3.2	2.9	2.5
60歳代	3.3	3.1	3.0	2.4
70歳代以上	3.0	2.9	2.9	2.3
合計	3.3	3.2	3.0	2.4

表 3-7-1 と表 3-7-2 より、総じて、年齢が低いほど「親戚を説得する」という比率が増えていることがわかります。

自分の結婚相手の条件については、年齢が低いほど、人権意識が高いと解釈されます。

表 3-8-1 は職種との関連をみたものです。

すべての項目において、職種と統計的に有意差が認められます。

表 3-8-2 は平均値を求めたものです。